

## 22年産米の動向～解消されない過剰感

10月も中旬を迎え、ほぼ主要産地の銘柄は出揃ったものの、この22年産は出来秋を素直に喜べない状況となっている。先月30日に農水省より発表された作況指数は「平年並み」の「99」となったが、全農系統が抱える21年産の在庫は8月末で販売残は約60万トンであり、米穀年度末(10月末)で25万トンを見込んでいることを始め(右表)民間流通在庫の増加や需要の減少などの理由から市場の過剰感は依然払拭できていない。21年産米の販売に苦戦する全農と、生産者手取りの大幅減に当惑する産地。現在の状況をまとめた。

平成20・21年産 米全農販売・契約数量(主食用米)

	21年産	20年産	同年同期差
販売計画	269	289	20
既契約数量	241	286	45
契約進捗	/ 90%	99%	
未契約数量	= - 28	3	25
既販売数量	210	240	30
販売進捗	/ 78%	83%	
要販売数量	= - 59	49	10

### 22年産JA概算金

21年産で全農が販売残を多く残しているとみられる県産銘柄を中心として、JA系統は22年産の大幅な概算金単価の引き下げを行っている(右表)。21年産の値引き販売で生じた各県共同計算の赤字を22年産の精算金相当額から補てんすることが全農の狙いとみられる。概算金の引き下げは農家手取りが前年に比して大幅に減少する恐れがあり、戸別所得補償加入者は来年春に助成を受けることが出来るものの、今年産の手取り減を全て補うことができるかは不明である。このことは今後の米主業農家の営農計画に大きな影響を与えるものと思われる。

【全農系統の主産地主要銘柄22年産概算金単価】(60KG当り)

銘柄	22年産単価	前年差
北海道 きらら397	10,000円	1,000円
青森 つがるロマン	8,500円	2,900円
岩手A・宮城 ひとめぼれ	8,700円	3,600円
秋田 あきたこまちB基準	9,000円	3,300円
山形 はえぬき	9,000円	3,300円
福島中通り コシヒカリ	9,400円	2,600円
茨城・千葉・富山・福井・滋賀 コシヒカリ	10,000円	2,000円
栃木 コシヒカリ	10,000円	2,100円
三重 コシヒカリ	9,500円	2,100円

### 22年産販売価格

21年産の在庫圧力に加え、22年産のJA概算金の大幅引き下げ、高温による22年産の品質低下などを背景として、先安観から需要サイドが新穀の在庫を積み上げず、当用買いに徹する状況が22年産の出回り当初から続いている。このため産地が在庫を抱えきれずに安値で販売し、販売価格の下落につながるという悪循環が起きている。

コシヒカリを除くいわゆるB銘柄の価格下落も著しい。10/12現在、関東着のB銘柄の中には青森のつがるロマンなど、商人系の卸問価格で1等・外税で1俵1万円台を割った銘柄も出ている。また関東のB銘柄も1等1万円前後の売り唱え価格をつけているにも関わらず、需要サイドの反応は芳しくない。今後各産地の収穫が終わり、相場の底値が見えてきた段階で需要サイドも新たな動きを見せるものと思われる。しかしながら不確定要因として21年産の販売残をめぐり全農が在庫処分に動くことや、全中が要望する22年産の政府米買入れが政治判断により実施されるなどの事態が発生すれば、22年産は全く違う展開を迎えるので注意したい。

## 九州菱肥会第30回実務者研修会

去る9月17～20日、九州菱肥会第30回実務者研修会の海外研修が実施された。九州菱肥会では特約店各社の実務者を対象として毎年研修会を実施しており、今回で開催30回を迎えた。例年は九州管内にて二日間の研修を実施しているが、5年毎に海外研修を開催している。

今回は中国の大連、瀋陽、旅順を訪問した。同地は中国東北部に位置しており、穀物や果樹の栽培、漁業が非常に盛んで、加えて北方に位置する吉林省、黒龍江省で生産される穀物、天然資源（石炭、レアアース）、重工業製品等の積出港（大連港）としての役割も併せ持っている。また、かつて明治時代から戦前まで日本と非常に深く関わり合いのあった地区で、多くの史跡・戦跡が残っている。尚、大連地区は戦前からの関係や地理的条件から、多くの日系企業（現在2,000社超）が進出しており、有数の親日的な地区として知られている。

研修会は3泊4日の行程で、訪問初日に三菱商事大連有限公司／陳社長に大連市概況の説明を受け、張マネージャーに同社食品事業を紹介して頂き、質疑応答や意見交換した。大連市の成り立ちは100年強と歴史は浅いが、豊富な石炭、水資源を背景に早くに整備された大連港や、戦前からの工場資産を背景に重工業が盛んな地区である。一人当たりのGDPは、中国平均や北京市平均を上回っており、加えて現在でも年平均15%以上の成長率で発展している。このことは駅や港、そして街にあふれる建設中のホテルや高層マンション、高速鉄道や街行く人の活気を見て深く実感出来た。

### 食品の安全・安心を価格で評価、コストアップに

中国でも食品の安全・安心には敏感になってきており、食品メーカー・加工業者に対する規制や検査が多くなり企業のコストアップに繋がっている模様。また、日本の農産物（コメ）は間違いなく中国人の口にも合うが、現状では価格が高すぎて市場性は低く、三菱大連としても在庫リスク等を考慮するとなかなか踏み込めないとの談。陳社長と張マネージャーには夕食にも同席頂き、華やかな成長の裏側にある中国の問題点などをざっくばらんにお話頂いた。二日目以降は史跡や戦跡、市内を観光した。二日目に訪問した瀋陽市は大連から鉄道で片道4時間以上もかかるが、清朝の旧都として歴史遺産を多く残している。今回は世界遺産の瀋陽故宮、北陵公園を訪問した。鉄道の車窓からはトウモロコシ、ブドウ、リンゴ、コメ、ハウス施設群など延々と続く農地を見渡すことができ、また一方で駅や露天で様々な果物を販売している姿も印象的であった。

三日目には戦跡が残る旅順と大連市内観光をした。旅順では日露戦争の舞台となった203高地、旅順港を見渡せる白玉山、旅順博物館を訪問し、大連に戻り大連港（戦後引揚げ船の多くが同港から出ている）、久光百貨店、大連賓館（旧ヤマトホテル）を見学した。久光百貨店は旧そごうが経営していた日系デパートで、価格帯は割高。青果物も現地相場では決して安くはないが、品質は日本国内で通常に流通している物より味・外見とも劣っている印象を受けた。一方、有機野菜が通常野菜の1.5倍程度の価格で売られており、その中身は別として安全・安心が価格で評価されていた。大連賓館では、かつて田中角栄と周恩来が日中国交を協議した会議室があり、一堂そこで記念撮影をした。



四日目朝、無事に帰国。出発前に問題となった尖閣諸島沖での中国漁船船長の逮捕に伴う反日活動を心配する声もあったが、現地では全く問題なく至って平和的な雰囲気の中で4日間を過ごす事が出来た。今回は特約店、賛助会員、事務局より総勢16名が参加したが、殆どの方が初めての中国。勿論、小生も初めての中国訪問だったが、一見無秩序な道路事情や一日中響き渡るクラクションや喧騒の中で、経済大国へ足早に駆け上る中国のエネルギーを垣間見た気がした。（福岡支店／塚原）

今年も新米の季節がやって参りました。秋の味覚は色々ありますが、私が何よりも楽しみにしているのは「新米」。最近ハマっている刻みしば漬を用意して、いつも頼んでいる会津の新米が届くのが楽しみです。

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp